

事務所訪問

一般国道38・44号釧路外環状道路の
全線開通事業

釧路外環状道路 釧路東IC～釧路別保IC L=6.9km

平成31年3月9日、一般国道38・44号釧路外環状道路の釧路東ICから釧路別保IC間の6.9kmが開通した。これにより、北海道開発局 釧路開発建設部が事業化した釧路外環状道路の全線が開通となった。この他にも今年度中に根室道路が開通する予定である。今回、事務所をお訪ねし、釧路道路事務所 第2工務課 米谷学課長と、道路計画課の南部裕之 道路調査官にお話を伺った。



北海道開発局釧路開発建設部
釧路道路事務所 第2工務課長
米谷 学 氏



北海道開発局釧路開発建設部
道路計画課 道路調査官
南部 裕之 氏

——釧路外環状道路の釧路東IC～釧路別保IC開
通事業について概要を教えてください。

一般国道38・44号釧路外環状道路の整備は、平成7年に事業化されました。釧路市街における交通混雑及び交通事故の低減による道路交通の定時性、安全性の向上の目的から、市街地を迂回し、釧路市鶴野から釧路郡釧路町字別保を結ぶ、延長16.8kmの一般国道バイパス事業です(図1)。

このうち、釧路西IC～釧路東IC間9.9kmは、平成28年3月12日に開通しました。釧路東IC～釧路別保IC間の6.9kmが平成31年3月9日に開通したことにより、全線暫定2車線での通行が可能になりました。



図1 釧路外環状道路

——今回の工事の特徴を教えてください。

この区間の地盤は、砂岩・泥岩・礫岩と多様な地質から構成されています。特に砂岩・礫岩の未風化部は非常に硬い岩盤となっており、火薬を用いた発破掘削を行いながら少しずつ進める工事となりました(写真1)。

その一方で湿原に近い部分は軟弱地盤。盛土や橋梁が沈まない対策を講じなければなりません。盛土部は緩速載荷施工を行い、橋梁部は硬い地盤まで50mほど杭を打設しました。硬い岩盤掘削と軟弱地盤が混在した区間だったため、かなり大変な工事になりました。さらに、事業の実施にあたり、釧路湿原地域固有の自然環境や野生生物に配慮しつつ進めてきました。



写真1 硬い岩盤掘削の様子

——釧路外環状道路が整備される以前、この地域における道路交通にはどのような課題がありましたか。

釧路市街地における交通渋滞解消が一番の課題でした。釧路市街地は都市部と住宅街が一極に集中しています。国道が街の中心部を通り、その延長線上に住宅が密集、さらに釧路港に出入りする大型物流トラックも国道を利用するという状態でした。特に、釧路西ICから釧路東ICの区間は渋滞発生箇所が多数あり、定時性が確保できない状況でした。また死傷事故が多いことも問題でした(図2)。



図2 開通区間の並行現道区間における死傷事故発生状況

——開通によって、どのような効果が期待できますか。

生活や観光に関する交通だけでなく、物流に関わる交通の定時性が確保でき、産業の発展に寄与できるのではないかと考えています。

釧路・根室地域の生乳生産量は全国1位です。根室方面から釧路に集まった生乳は釧路港から道外へ出荷されます。その量は年間約14.7万トン。さらに各地域では大規模農場やTMRセンター(※)の整備など生産規模拡大に向けた取り組みを推進しています。また釧路港では、平成30年11月に国際物流ターミナルが整備され(写真2)、大型船の入港が可能になったことから、乳牛飼育に欠かせない飼料原料の輸入コスト低減が期待されます。

今回の開通により、釧路港と酪農地域とのアクセシビリティが向上しました。釧路港整備と連携した飼料の効率的な供給、そして生乳の安定的な輸送が可能となり、酪農産業の発展の支援につながると考えています。

※牛の飼料(Total Mixed Ration)を生産・調製・配送する施設



写真2 釧路港の国際物流ターミナル

——酪農以外の産業への影響はありますか。

水産業にも貢献できるのではないかと思います。釧路・根室地域は水産業が盛んな地域です(写真3)。特にサンマの漁獲量は全国シェア第1位を誇り、年間約2.5万トンを苫小牧港等から全国へと出荷しています。「一本立ち歯舞さんま」などのブランドサンマは、首都圏や全国の老舗百貨店で取り扱われるほど人気商品です。水産品輸送ルートである開通区間の平行現道には、急カーブ箇所が存在し、安全性の高いルートの確保が課題となっていました。今回の開通により、急カーブ箇所を回避することができたため輸送安全性の向上を支援することができました。輸送業者の方からは、「これまで荷崩れなどに注意して走行していましたが、今回の開通により水産品などの輸送確実性や品質確保に繋がると期待しています」という声もいただいています。



写真3 水揚げされるサンマ

——地域の暮らしとの関わりあいはいかがでしょう
うか。

物流だけではなく、緊急輸送の安全性も向上します。釧路・根室圏には3次医療機関が市立釧路総合病院のみのため、圏内の救急搬送の約9割が集中する状態です。開通区間の平行現道は急カーブや急勾配区間が連続するため、救急搬送時の急挙動が発生します。今回の開通により、救急搬送時間が短縮され、急カーブ区間や急挙動発生区間を回避することにより、搬送中の患者さんへの負担が軽減され则认为しています(図3・4)。

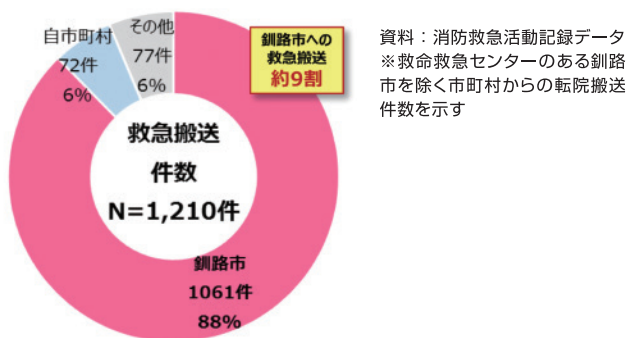


図3 釧路・根室3次医療圏での救急搬送先の割合(平成29年)

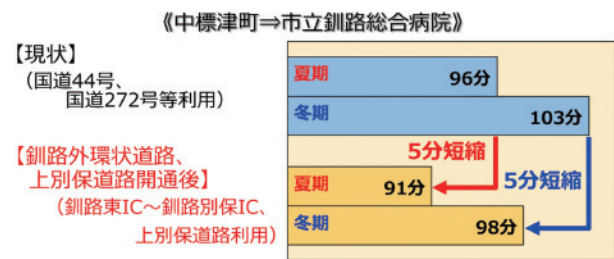


図4 中標津町⇒市立釧路総合病院の所要時間の変化

——地域の暮らしに関わる安全・安心の観点から、災害時の避難経路確保にも役立ちそうです。

釧路外環状道路は災害時のことも考えて設計されています。釧路・根室地域では大規模地震による大きな津波が発生した際、平行現道の国道38号、44号は浸水が予想されます。釧路外環状道路は、緊急輸送道路ネットワーク確保の機能も求められていました。今回の開通により、国道44号釧路東IC付近の浸水予想区域が回避可能となり(図5)、開通済み区間と併せて災害時における迅速な避難及び確実な救援活動ができるようになります。

また津波浸水予想地域内の住民が津波から避難・退避するための避難場所として活用するために、釧路町が「防災ひろば」を整備(写真4)。緊急搬送路により釧路外環状と接続しています。今回の開通により、中標津・根室方面の自衛隊駐屯地等からの災害支援が、より迅速かつ確実に行えるようになると考えています。

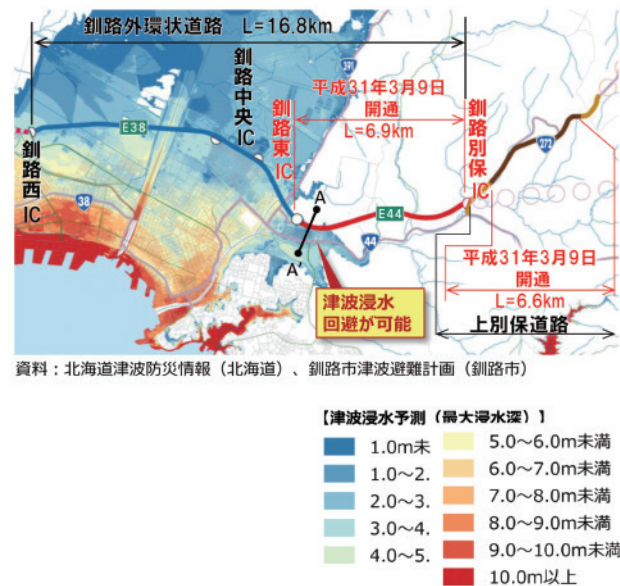


図5 釧路市内の津波浸水予想図



写真4 釧路町防災ひろば

——観光の活性化についても期待される効果はありますね。

道東は自然が豊かなエリア。阿寒摩周国立公園内には阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖もあり、野付半島や知床半島など、観光資源も豊富ですから、広域的に観光を楽しむお客さんも多いと聞いています。高速道路が阿寒ICまで開通していますが、今後さらに釧路西ICまでつながれば釧路市内に入るのがとてもスムーズになります。

平成28年3月に北海道横断自動車道の白糠～阿寒ICと釧路外環状の釧路西IC～釧路東ICまでが開通したことにより、釧路・根室地域へのアクセス性が向上しました。地域内の道の駅では来訪者がそれまでの約1.4倍に増加したというデータも出ています(図6)。

近年、釧路市内からその先の根室方面や知床方面へと足を伸ばす観光客が多くなっていることから、釧路外環状道路を使って市街地の渋滞を回避できれば、観光客の方々の貴重な時間を費やさずに済みます。観光の活性化には大いに期待が寄せられています。またインバウンド観光客に人気の「北根室ランチウェイ」や「開陽台」、「厚岸蒸留所」等へのさらなる来訪者数増加も期待されるところです。

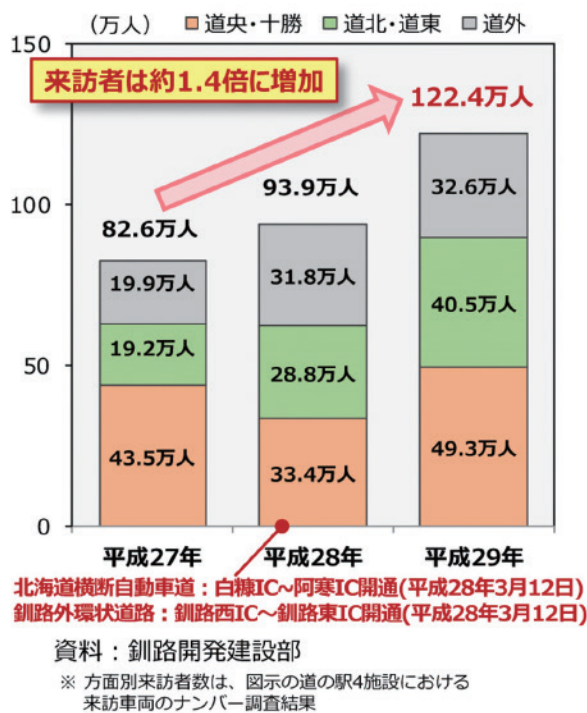


図6 釧路・根室地域内道の駅における方面別来訪者数

——今後の整備計画についても教えてください。

現在事業が進められている北海道横断自動車道の阿寒IC～釧路西ICとの接続も予定されています。引き続き、地域の皆さまのご協力を得ながら、人の流れや物流の拡大、地域・拠点間の連携を確保する高規格幹線道路ネットワークの構築を推進していきます。

——そのほか、現在進められている事業はありますか。

今年度内に開通が予定されている一般国道44号「根室道路」があります(図7)。温根湯ICから根室ICまで7.1kmの区間を現在整備中です(写真5)。国道44号は重要な生活道路で、市街地を通過し、漁港もあります。ここは冬になると吹雪のために視程障害を起し通行止めになることが頻りにあります。積雪は少なくとも強風のために地吹雪が起こるとい根室管内特有の厳しい気象条件があり、課題となっていました。

根室は港からの水産品や管内の牧場で毎日搾られる生乳など、生鮮食品の物流が多いエリアです。根室道路が開通することにより、冬でもスムーズな物流が確保できるようになります。

そのほか、今年度に「尾幌糸魚沢道路」が新規事業化されました。厚岸町尾幌から厚岸町糸魚沢まで通じる24.7kmで、津波浸水予想区域を回避する道路として、物流だけでなく緊急搬送や災害時の活用が期待されています。

道東エリアは、美しい自然が多く、おいしい食べ物もそろっています。北海道らしい雄大な風景が広がる魅力的なエリアです。その地域で、経済の発展や魅力発信に役立つ信頼性の高い道路ネットワークを構築してゆきたいと思っています。



図7 今年度開通予定の根室道路



写真5 根室道路の施工状況